

日本ニュース

シネスコ版

38. 8. 9

No. 499

昭和4年 = 2-ス no 162
中国の号 = 2-ス no 174

預いもあらたに

—原爆烈聖祭—

広島 127頁 ト70へ追加

一、篠田警視庁へ護送

日本の国際信用に暗影を投げた石炭ガラ輸出詐欺事件。六日午前三時主犯篠田忠勝を乗せた第八東西丸はシンガポールから横浜港に到着。篠田は詐欺、関税法違反、公文書偽造行使で逮捕されました。国外逃亡以来38日ぶり。横浜から東京水上署へ更に警視庁へと護送された篠田は黒シャツと黒メガネ。というダンディな服装。しかし、この事件は輸出振興ムードに便乗し、輸出手続を巧みに操ったものといえそうです。

カメラ・スケッチ

一、歩くマーケット

—石川

巨大な資本に物をいわせるデパートの特売戦術。それに対抗する商店街のスーパーマーケット化、合理化の最たる自動販売機と、このところ流通界の変貌には目を見はるものがあります。こうした折から、北陸の金沢では「婦人販売店」システムという変わったマーケットがお目見得しました。これは、あるメーカーがこのほど試みたいわば、歩くマーケット。やさしい女性のスマイリングセールで大いに販路を拡張しようというものは、やくも台所の話題を賑わしています。

アイモ風土記

一、軽井沢

—長野野

浅間山麓の高原を彩どる軽井沢。ここは上流社会の快適な避暑地として知られて来ました。古くから軽井沢一帯は中仙道時代の宿場街として賑わいましたが、時代の趨勢(すうせい)とともに宿場街は衰退していきました。こうした折、軽井沢を再発見したのが外国の宣教師でした。異国人の手によって育てられた軽井沢には世界各国の人種が日本のバカンスを愉しんでいます。

現在軽井沢には七つの教会があつて、白樺の林に流れる日曜ミサの讚美歌は、軽井沢のイメージにそぐわないような風情があるのです。「街」と呼ばれる商店街は全国の有名店が軒を並べ、東京銀座なみのにぎわいを見せ、また近年では経営セミナーが多く、出世街道を行くエリート達にとって、軽井沢は千金の魅力といえるのです。こうした特殊な社会に形成されたのが「軽井沢族」なのです。一大娯楽センターとともに大衆化が進み、スポーツにドライブにバカンスを愉しむ若者達は、若いエネルギーを発散させる場として集まるのです。そうした風俗の反面、町では風俗審議会を開き、国際的避暑地としての軽井沢を守るため地元民の努力も大きいのです。しかし現在では、ここにも別荘ブームにわき立っています。伝統的な軽井沢のイメージも、やがて大資本家の手によって一風変わった観光地帯に移り変わらうとしているのです。

678頁

277頁

274頁